
鍊鉄の剣

昇龍銀行

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

錬鉄の剣

【Nコード】

N4823N

【作者名】

昇龍銀行

【あらすじ】

とりあえず、剣が主人公です。

1 自覚めたら…（前書き）

はじめまして、私は昇龍銀行しょうりゅうぎんこうともうします。はじめてなので優しくしてね。

というのは冗談で何か至らない点がありましたら感想に何でもどうぞ。

続けるかどうかは分かりませんが…

1 自覚めたら…

我輩は剣である。名前はまだ無い。

と某国の有名小説の書き出しを拝借してみるが、本当に私は誰だろう？ いや、私の場合は何だろうというのが妥当であろうか？

目覚めたら遺跡のような場所に居た。暗くて何も見えないが、私は地面に突き刺さっているようだ。

とりあえず私は剣であるらしいので動けない。

まあ、飢え死にもしないが。

そういうことなので私は私という剣を手取る人を待つことにした。

その間に私という存在について思い出してみることになろう。この暗い遺跡の中で…

2 年月が過ぎ…（前書き）

とりあえず、2話目。小説は難しい…

2 年月が過ぎ…

私が目覚めてからどのくらい過ぎただろうか？

なにしろ、周りは真っ暗で何も見えず、周囲に何の変化もない。

おまけに私は剣であるから腹時計などという生物的なものはもっていない。

まあ、それはともかくこの暇な時間を記憶の追求に費やしたわけだが…

ほとんど思い出せなかった…

思い出したのが私が剣を作り出す能力を持っているらしいということだけだが…

現在、私はその能力を使うことができない。

思い出した唯一の記憶が全く使えないというのは情けないが…

もうこの場で思い出すのは諦めることにした。

せめてもう少し刺激が欲しい。

誰かが私を見つけるのを待つしかないか…

3 初めての变化（前書き）

初めての感想が嬉しくて続きをかきました。 3話です。

3 初めての变化

あれからまた少しときが過ぎた。

ひとつ嬉しいことがあった。

なんと、

石の欠片が上から落ちてきたのだ。

いや、小さいことかもしれないが私にとっては大きな出来事である。

少なくともどこからか衝撃が伝わっているである。

つまり、だれかしらがこの場所を見つけるといふ可能性が存在するということだ。

思わず少し喜びをあらわにしてしまったが…

この程度のことと興奮する私は一体何なんだろうか…

そろそろ誰かと接触しないとどこかおかしくなるかもしれない…

4 待望の…（前書き）

いよいよ…

4 話目です。

4 待望の…

あれから小さなことがたくさんあった。石の欠片が落ちてきたり、風の音が聞こえたり…

その度に、私はあり得ないほど喜んでしまったが…

不覚だ… もう忘れてしまいたい…

もしや！あれが黒歴史というものが…

なんと恐ろしい…

む。何か音がしたな…

今度こそ喜ばないようにしなければ…

しかし、音が近づいているような…

あれは、もしや！

段々音が大きくなって来て…

「ん、これなんだろう？」

私が目覚めてから初めて遭遇した生物は人間の子供だった……

5 子供の…（前書き）

会話に悪戦苦闘…

5話目です。

5 子供の…

あの後、私はあの暗い遺跡の中から持ち出された。

その時、私は光を見た。空はオレンジ色に染まり、山に太陽が沈んでいた…

この光景に感動を覚え、感傷にひたっていると、いつの間に木造の家屋と思われる場所に居た。

「ただいま！じいちゃん、見てみて！」

その子は、私を椅子に腰かけている老人に私をみせた。

「なんじゃ、このボロツちい剣は。刀身は錆びとるし、持ち手もボロボロ、鞘もないし…こんなボロ剣の集大成みたいな剣、どこから持ってきたんじゃ？」

ボロ剣の集大成みたいな剣…

確かに、自分の姿は見ることで無く過ごしてきたが、そんなに酷いとは思わなかった…

その後、私は茫然自失の状態に陥り、ただ太陽をボーと見つめていた…

6 ポロポロの…（前書き）

なぜこんな時間まで起きてるんだろう…
6話目です。

6 ポロポロの…

とりあえず私は前に進むことに決めた。

今がダメなら、これから変わればいいじゃないか。最終的にその結論が出たのは30回目の日が沈んだ頃だったが…

さて、どうやらこの1ヶ月で私はあの子の遊び道具に定着したようだ。

自分で言って悲しくなるがいくらポロすぎて何も斬れないとはいえ一応刃物である私を子供が持って良いものだろうか？

本当に悲しくなってきたが…

というか私を少しは研いではくれないかなあ…

こうなれば、私を研がせる策を考えねば…

7 策は…（前書き）

初めて骨を折った今日この頃…
7 話目です。

7 策は…

よくよく考えてみれば、策を練る前に私は何も出来なかったんだ…
喋ることも、動くことも…

これでは、策など練れないではないか…

私には待つしかできないというのか…

仕方がない、か…

せめて、私と意志疎通ができる存在がいればいいのだが…

そんな都合よくいるわけがない。

諦めて待つしかないか…

しかし、この子はいつも一人で遊んでいるが、友人はいないのだろうか？

この子の将来が少し心配になってきたぞ…

主に人間関係の部分で…

8 初恋は…（前書き）

数打ちや当たる。
八話目です。

8 初恋は…

どうやらあの子は恋したらしい。

あの子がよく遊んでいる森の中に湖を見つけ、その女の子を見つけた。

そう、裸で泳いでいるその女の子を。

さすがに、その女の子の前に出ていくのは気が引けたらしく草の陰から見ていたが…

子供ということを考えないと、完全に性犯罪者だな、この子…

まあ、そんなことがあってからその湖に毎日のように通っているが、話しかける勇気が出ず見つめるだけにとどまっているようだ…

この子の未来がますます心配になってきた…主に犯罪者的な意味で…

9 第一声は…（前書き）

更新しました。

9 話目です。

9 第一声は…

あの女の子にあの子が出会ってから、というよりは見かけてから、1ヶ月がたった。

今日、ようやく話しかける決心をしたらしい。なんか、すごく緊張している。

というか、1ヶ月毎日のように見ていたくせに今日まで話しかけようとしないうちで、どれだけシャイなんだ。

ちゃんと服を着て遊んでいたときもあったというのに…

もう少し積極的になれよ…

ま、子どもなんてそんなものか…

お、近づいていったぞ。

「あ、あの、僕の、」

まさか、初対面でお嫁さんとも言うつもりか？

「神さんになって下さい!」

……は?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4823n/>

錬鉄の剣

2010年10月12日04時04分発行